

(令和7年3月24日 午前11時13分 開始)

○議員（蓑原 敏朗議員） さきに通告いたしました質問要旨に基づき、質問をさせていただきます。

今回は通常と異なる異例な形での3月議会となり、一般質問は、昨日の町長の町政運営方針に対してのみということなので限定されますが、お尋ねしてまいります。

まず、人口対策についてお尋ねします。

人口は、当該団体の勢いを計る大きなバロメーターではないでしょうか。ましてや、人口の自治体の推移は端的に、その自治体の元気度が現れると思います。残念ながら本町においても、人口は毎年減少していますが、川南町のみならず全国多くの地方自治体では人口が減少、少子化に苦慮し、対策を練っているところです。ただ、その努力にもかかわらず、必ずしも対策の実効、効果は上がっているとは言えません。人口が減少しますと地域の維持も難しくなり、ひいては、町全体の勢いも失われていきます。

町長も人口減少の危機は十分認識され、対策の一つとして、今回、移住支援アドバイザーの配慮という御発言かと思います。多くの自治体では、人口減少対策の適切な答えは持ち合わせていないようですが、町長の何かせねばという、ただ嘆くだけではないトライ、チャレンジの姿勢は評価いたします。失敗をおそれたり、何もしないで対策を講じず、じっとしていることこそ、最も非難されるべきことではないでしょうか。

そこで、今回の御提案の移住支援アドバイザーの配置についてお尋ねいたします。先ほど、同僚議員から同様の質問があり、重なる部分もあるかと思いますが、御容赦いただきたいと思います。先ほども申されましたけど、具体的な人選はどのようにされるのでしょうか、現段階でお持ちの考えがあればお聞かせください。

併せて、タイムスケジュールというんですか、行程表についても計画がありましたら、今年度中とかいうことじゃなくて、いつまでにこういうことというような具体的などがありましたらお聞かせください。

あとの質問は、質問席でお尋ねいたします。

○町長（宮崎 吉敏君） 蓑原議員の質問にお答えします。

移住支援アドバイザーということですが、現在は窓口として、地域おこし協力隊員が移住相談を行っております。様々な支援策の説明や川南町の情報を発信していますが、移住を希望される方々をさらに手厚くサポートするため、民間の力を活用して、J A、商工会など多岐にわたる団体から選ばれた方々で組織する支援サポート体制をつくりたいと考えております。

また、タイムスケジュールということもおっしゃいました。基本的には、各団体それぞ

れ組織の事業を抱えていらっしゃいます。まず、各団体の理解を求めるということが大事なのかなと思っています。その中で、仮に商工会という中では、中小企業診断士、それから経営支援員という形の職員がいます。そういった方々のお力、また、農協もしかりだと思います。そういった方々のお力を借りながら、具体的な問題に対して適切にアドバイスできる、そういった組織をつくりたいと思っています。

早急にということですが、これはそれぞれの団体の活用を考えておりますので、まず各団体の理解を深める、これがスタートではないかなと思っています。

以上です。

○議員（荻原 敏朗議員） 各団体からということ、各団体の協力を得ることがまず最初だよということですけど、全くそのとおりですけど、ただ、町長はそうじゃないんでしょうけど、私なんかはぐずぐずしてるほうですから、何かせっぱ詰まらないとやらないというような性格なものですから、ある程度、いつまでに何々というのを決めておかないと、ずるずる行って年度末になってしまって、取ってつけたようなことになりはしないかという懸念をしてしまったわけですけど、そのことについては大丈夫でしょうか。

○町長（宮崎 吉敏君） 荻原議員の質問にお答えします。

今回、私が移住支援アドバイザーという組織をとすることは、最も重要なことだと考えております。先ほど時間がだらだらと流れてということじゃなくて、各団体の理解を得られれば、早急に動かしたいと考えております。所信表明の中でもこれ発表させていただきましたので、最大の課題として捉えておりますので、ただ時間が経過してうやむやにということはやらないと考えております。御理解をお願いいたします。

○議員（荻原 敏朗議員） ぜひお願いします。自分のことで恐縮ですけど、私は、横文字は使うなって言われてるんですけど、英語でプロクラスティネーターと言います、ぐずぐずする意味を。そんなタイプなものですから、杞憂に終わることを期待しておきます。

ここで町長、毎年川南町は人口が減っているんですけど、この状況をどう捉えておられますか。聞き方がちょっと悪いですね、どのくらいまでなら、川南町の人口は持ちこたえられるんですよと、これ以上減っちゃ駄目だよというのは、何か想定はされていますか。

○町長（宮崎 吉敏君） 荻原議員の質問にお答えします。

具体的に人口が何名というのは、まだ想定しておりません。ただ、いろんな定住、移住、いろんな川南町の施策が打たれております。ただ、それだけでは至らないと。今回の支援アドバイザーというのは、しっかりとその方に寄り添って、その人の問題を解決する。これがなければ、来ていただいてもまた違ったところに転出されるという、一番避けなければいけない世界かなと思っています。

それと、今現在、各地区で、各行政でいろんな施策を打たれています、定住移住に関して。ただ、現実的に問題なのは、その施策、期間があってその期間で恩恵を受ける、ただ、それが終わったら、また、よそにという事例も起きています。

まず、私は一番考えるのは、やはり川南町に住んでよかったなという、その結果を出すべきじゃないか、そのためにこういった支援アドバイザーという組織を立ち上げて、一人一人に寄り添った支援。それぞれの団体も、農家のほうであり、商工業のほうであり、漁業もそうですけど、いろんなそういった組織内に持っているんですね。そういった方々を多面にわたるような相談組織ができればいいなと思っています。

以上です。

○議員（養原 敏朗議員） 実は、次の質問を考えていたんですけど、新アドバイザーに何を期待するんですか。もう町長がおっしゃったので、それは聞きませんが。じゃあ、なぜ人口が川南町の場合、減るんでしょうか。先ほど町長がちょっとおっしゃいましたように、各自治体いろんな支援策をやって、中には県内の自治体で少し人口が増えている、転入者が増えているところなんて、とても川南町ではまねをできないようなすごい金額の支援策も出しているところもあります。

でも、先ほど町長がおっしゃったように、その期間が一定、期間過ぎたらどうなのかなという不安も残るわけですけど、本町の場合、時間、なぜ人口が減るんでしょうか。

○町長（宮崎 吉敏君） 私が、なぜ人口が減るのかと。これは戦後、大都市圏から集団就職という形で若い世代の方々が集団就職、それから学歴、大学等も含めて外に求める。一回外に出られた方というのは、なかなか、先ほどUターンという話もありましたが、なかなか帰ってこないんですね。これは、戦後からずっと培われた歴史の中で、若い人をとどめるといことが、ある年齢になったらやはり都会を目指したいとか、そういった環境の問題もあろうかと思います。

それから、自然に人口が増えているというところは、逆の意味で言えば、都市圏の隣接した市町村がベッドタウン等で、都市に住むよりは安くて、土地が、経費がというような中で、その周りにベッドタウンみたいな形で組織されている。ぜひ私は、若い人が出ていくということは、これ、その人の人生の中で大事な世界ですから、それを私たちがどうのこうのとは言えないと思います。

ただ、教育の場の中で川南町、地域を愛するという思いだけは育んでほしいなと。その方々がよそに出られて、何年か後には川南町にという結果も出したいなと思っています。この今までの人の流れ、地方から中央に流れている、これは戦後80年になりますかね、全くそこに対しては手が打てていないんです。これは一番大きな問題だと捉えています。

人口の問題もあって、郡内に南九州大学というのがありました。高鍋町には県立農業大学校というのもあります。そういった中で、上を目指す方々の学ぶ場があれば、また流出というのはある意味防げるというのものもあるかもしれません。でも、今の現状の中で大きな流れの中を変えるという、これはなかなか厳しいと思っています。ということは逆に、川南町が魅力ある町になる、このことが、町外から、都会から田舎でというような、そういった方々を引き寄せる一つの方策になろうと思います。やはり魅力あるまちづくりをつく

っていく、築いていく、そのことに尽きるんじゃないかなと思っています。

以上です。

○議員（荻原 敏朗議員） 町長のおっしゃることの中に幾つか、ああ、そうだよなと思ったことがあります。集団就職とか、これ仕事を求めてですよ、集団就職というのは。それと学業、夢を抱かれて都会に行かれた方いらっしゃるでしょう。それらを否定するものではありませんけど、逆に言うと本町に仕事がない、生計を維持できる仕事がないということで、好んでじゃなく、嫌々出ていく人もいるんじゃないかと思うんですよ。

町長がおっしゃった魅力あるまちづくりに尽きると、そのうちの大事な要素は、生活ができる仕事があるというのもその要素じゃないんでしょうかね。これは僕の考えですから、ひょっとして違うよという考えであれば、またお聞かせください。

移住支援アドバイザー、先ほど同僚議員の質問の中で、町長、来られた方が、一定期間を過ぎて出ていかないようにということも、ちょっと触れられたかと思うんですけど、もうちょっと広げてですよ、今、住んでいる方が出ていかないようにということですか、そういう支援も必要だと思うんですよ。そういうのも移住支援アドバイザーに期待するのは、ちょっと幅が広すぎますかね、酷でしょうかね。

○町長（宮崎 吉敏君） 移住支援アドバイザーは、当事者の方が、今、抱えている問題等をしっかりと支援する、アドバイスするというのが全てかなと思っています。川南町で一番大事なもののというのは、やはり町民であり、川南町に移住して住んでいただいている方々、そういった方々を取り残さないようにしっかりと、全ての環境は、川南町も私が言うものではないと思いますが、もっと充実しないという思いもありますが、結構、市町村の中でも支援策、それから福祉等については、ある意味充実しているんじゃないかなと捉えています。

また、地域で新規創業とか、それから後継者が就農とか、そういったことに関しても、具体的な支援策はあります。もし私で足りなければ、担当者がお伝えしたいと思いますが、そういった様々な支援策は講じています。ただ、来ていただいてここに住んで、町民もそうですけど、よかったなと思えるような環境づくりというのが、間違いなく将来に結びつく世界じゃないかなと思っていますので、そういった環境についてはしっかりと取り組んでいきたいと。また、外に出ていく方々に対しても、一応担当課のほうでアンケート調査、なぜ転出されるのか、どういう理由があつてとかというのもアンケート調査を行っております。ですから、そのアンケート調査を基に、もし何か課題、問題があるのであれば、それはしっかりと対策を打っていく、そういう考えでいます。

以上です。

○議員（荻原 敏朗議員） ですから、私、お尋ねしたかったのは、支援アドバイザーは、経済団体等の方も考えていらっしゃるということでしたので、現に、離農、離漁というんですか、漁業をやめられるような人のことも分かっているから、それら

の方についても、入ってこられた方の支援だけでなく、出て行かれる方についても造詣が深いんじゃないかと思ったものですから、その辺も求められたらどうなのでしょうかねということを質問したところです。ぜひ、その辺もお願いしたいと思います。

次に、町内産業についてお尋ねします。今日、体調が悪くて休んでいらっしゃる同僚議員が質問を上げていたようですけど、それを聞いて質問しようかなと思っていたんですけど、基幹産業である農林水産業の収益向上と安定した経営支援をと、町長、述べられています。何か具体的な、こういうことを考えてますよというものがありませんでしたらお聞かせください。

○町長（宮崎 吉敏君） 蓑原議員の質問にお答えします。

今回、議案にも上げさせていただいております、収益向上への具体策は、議案第21号令和7年度川南町一般会計予算にて計上をしている関係費目でありますと同時に、関係する特別会計予算であります。

なお、その代表的な中身について触れますと、物価高騰により消費低迷が続く肉用牛生産者への収益向上策として、川南産牛肉の消費拡大事業880万円、特産品送料助成事業7425万円など、様々な事業を継続し、収益向上を支援します。

なお、新規事業といたしまして、漁業者の所得向上対策を目的として、魚価向上支援補助金、内容については、船の生けすの保冷力向上のための改修、町単独事業で補助率2分の1、上限50万円は、昨年12月議会定例会で可決いただきました川南産農林水産物等消費拡大条例に基づき、事業を構築いたしました。加えて、議案第5号川南町経済推進会議の設置も、農林水産業をはじめとします本町の産業振興への対策であります。

また、宮崎県においては、施設園芸の飛躍的な生産向上を図り、デジタルデータやAI分析による作物の最適な栽培環境の創出、データに基づく栽培指導ができる人材育成など、施設園芸におけるデータ駆動型農業の実現を目指すことを目的として、施設園芸のデジタル化推進プロジェクトや民間事業者と連携したアプリの開発を行っています。

今後は、川南町の農業においても、県が創出した取組を加速するために、施設園芸のデジタル化推進プロジェクトへの参画推進やデータを活用した農業を志す経営体への初期投資支援などを行うことにより、本町農業の生産性向上による収益向上を図っていく必要があると考えています。

なお、具体的な取組については、宮崎県、JA、その他の生産者団体との協力、連携も不可欠であると考えております。

以上です。

○議員（蓑原 敏朗議員） 町長、るるお述べいただきました。もちろん、一生懸命やっ

ていらっしゃることは理解しております。ただ、構想とか、こういうことをやりたいというのではなくて実施施策を、具体的に何々をやるよというのを農業者、漁業者辺りは期待しているのではないかと思うんですよ。

その辺の情報を町長は、トップ会議等で捕まえられることとされているんでしょうけど、私、現場の、うちでいう担当職員も、現場をぜひ知ってほしいし、農業部門であれば、その職員と農協の職員、漁業であれば、川南町の職員と漁協の職員との交流も、現場での交流も必要じゃないかと思うんですよ。町長だけでなく、職員間の交流も必要だと思うんですけど、町長、どうお考えでしょうか。

○町長（宮崎 吉敏君） 先ほど説明いたしました議案等については、現場職員が責任を持って、それぞれの団体、農協、漁協と対話を重ねながら、具体的な案を示したところで。決して職員が現場に赴かないで、机上論だけでやっているということではありません。しっかりと現場の意見を承って、どうしたらいいかということでの実現ということを考えております。そこは間違いなく現場の職員は努力しておりますので、御理解を賜りたいと思います。

以上です。

○議員（蓑原 敏朗議員） 現場での交流はやられておると、その上での政策だということですけど、それはそれで理解しますが、より一層、その辺は強めていただきたいと思います。町長、寄り添うとかいう言葉使われますけど、全くそのとおりですね、そのためにも現場で情報収集にも努めていただきたいと思います。

これは学生時代、余談で聞いた話ですけど、かつての帝政ロシア時代に政治的な悪いこと、悪いことというんですか、当時の皇帝なんかに齒向かってシベリアに流された人の最も重い罪は、こっちにある土を運んでこっちに移すと、その土を元に戻すと、目的のない作業をずっと無限に続けさせるということだったんだそうです。嘘か本当か知りません。そんな夢も希望もないような作業ではいけないと思うんですよ、農業、漁業等が。

だから、夢とか希望、いつまでにどんな施策をするんだということが、寄り添うということの具現化、具体化じゃないかと思うんです。そのため、ぜひ町長もトップ会談で情報収集されるでしょうけど、現場においても、ぜひそんな努力をしていただきたいと思います。

次に、資金の町内循環についても触れられております。そのために、電子地域通貨のことを言っておられますけど、電子地域通貨につきましては、発売するとすぐに売り切れるというような状況で、消費者サイドからは一定のニーズもあるんだろうと思います。ただ、電子地域通貨事業の推進が、本当に域内循環について大きく寄与しているということについては、若干疑問もないわけではないんです。町長の御認識はいかがでしょうか。

○町長（宮崎 吉敏君） 蓑原議員の質問にお答えします。

本町独自の電子決済システムであります、電子地域通貨トロンの流通額、本年度を含む直近3カ年を申し上げます。令和4年度が3億4255万6936円、令和5年度が3億7884万3930円、本年度は3月9日までのデータですけど、4億8120万1069円です。それから、利用できる登録店舗数ですが、現在、町内193店舗が登録している状況です。

そのうち、懸念という言葉がありましたけど、そのうちの15店舗が、本店や本社が町外である、その割合が全体の8%に相当します。おおむね、年を重ねるごとに流通額、それから店舗取扱店も増加し続けています。この状況は、電子地域通貨トロンの認知度が向上しているものであると分析しております。

全員に行き渡らなかったというのは、先月、2月に地域通貨トロンのプレミアムということで取り組みましたが、これは国の緊急経済対策ということで、3月年度内いっばいで全ての事業を終了するという前提がありましたので、地域通貨トロンの経済対策ということで利用させていただきました。

町内における貨幣経済の全てを当該電子地域通貨事業で賄おうとは考えておりません。今後も取扱店舗等の取扱額等の分析作業を進めつつ、地域内資金循環がより高まるような施策を講じてまいりたいと思います。

ここで一つ、お伝えしたいことがあります。川南町が、第一に農林水産業が潤うことで、その潤った金で町内の消費が上がる、そして、事業者もそうですけど、町内の消費が上がるということで税収も上がってくる。これが経済、金の流れの一番大切なことではないかな。できるだけ町外に出ていく金をとどめたい、町内にない業種というのは致し方ないかもしれませんが、町内で賄えるということは、絶対に町内で利用を促進していただきたい、これが私の思いです。

以上です。

○議員（荻原 敏朗議員） 町長も調査するとおっしゃったから、これ以上言いませんけど、私が懸念しているのは、店舗数は8%ぐらいとおっしゃったけど、金額ですよ、電子地域通貨を買って物を買われるお店というのは、どうも町外資本のお店が圧倒的に多いんじゃないかというのを心配していますので、その辺の調査と、ぜひ何か手だて、難しいかも分かりませんが、手だてもぜひ考えていただきたいと思います。

次に、人材育成についてお尋ねします。

町長は、子供も大人も地域との関わりを大切に、また、地域に根差した人材育成と言われますが、その意図とはどういった意味なのかなと、具体的にこういうことをするんですよということがあれば、お教えいただきたいと思います。

○町長（宮崎 吉敏君） 荻原議員の質問にお答えします。

中瀬議員の質問の中にもお伝えさせていただきました。川南町は平成27年から、地域と学校が連携を図った取組を推進しております、これはキャリア教育も含めて。各学校において、子供たちが地域に出かけて地域の方から教えてもらったり、地域の方々が学校に来てくださったり、また、子供たちに話をしてくださったり、一緒に活動をしたりするような学習を設定しております、子どもに対して。

川南町の教育の特色の一つであると考えておりますので、これからも地域の学校という考え方を大切にしながら、このような取組を通してふるさと川南を愛する子供を育ててい

きたいと思います。

また、いろんな形で地域の方々もそれに参画することによって、逆に自分の生きがいというものも芽生えてくるんじゃないかなと思っておりますので、しっかりと地域で学校、地域で育てる、この考えを推進していきたいと思います。

以上です。

○議員（荻原 敏朗議員） 町長のお考えは分かりました。町長も、先ほど同僚議員の質問でおっしゃっていましたが、全てが人ですよということですよね。誰だったか忘れまして、人は城と言った武将もおりました。予算や財源が幾らでもある時代ではありません。地域間競争というんですか、自治体間競争、生き残り競争はもうある意味、知恵比べだと思うんですよね。お金がいっぱいあるところはお金を使えばいいんでしょうけど、お金のないところはもう工夫するしかないわけです。人材育成が重要になってくると思うわけですよ。

2つあると思います。地域の人材と行政職員、まちづくりに携わる職員の育成、その2つをそれぞれでもいいし、協力してやればもっと相乗的に効果があるでしょうけど、町長、何か人材発掘や人材育成について、アイデアをお持ちでしたらお聞かせください。

○町長（宮崎 吉敏君） 荻原議員の質問にお答えします。

今、職員もという話もありました。職員の方々は、様々な研修にそれぞれ意欲的に携わっております。いろんな知識を豊富に、そして、そのことを踏まえて町民にサービスができる、これが基本的な考えだと考えております。

それから、子供にとっては一番大切な、豊かな心を持つてというのが大事じゃないかなと思っております。ぜひ、学業も含めて豊かな人に育ってほしい、これが全てであります。また、そういった豊かな心を持っている方は、逆にいろんな方々に影響を与えることもできると考えております。ぜひ、子供たちにはそういった人に育ってほしいなと思ってます。

以上です。

○議員（荻原 敏朗議員） 時間もありませんので、人材育成についてはこれ以上お尋ねいたしませんけど、またの機会に質問させていただきます。

ただ一つ、同僚議員の先ほどの質問の中でちょっと気になったことがあったんですけど、青壮年の教育が抜けているんじゃないかという質問があったかと思いますが、全国的には文科省がやるだろうし、県でいえば県教委、川南町では果たして町教委、すんなり真っすぐなっているのかなと。川南町の場合は自治教育というんですか、公民館、地域づくり教育は、教育委員会の範疇じゃなくてまちづくり課、本町の場合はウエイトが大きいんじゃないかなという気もしているんですよ。その辺の国・県との、言葉は悪いですがね、ねじれというんですかね、その辺を町長、どのようにお考えでこの辺を改善されるおつもりはございませんか。

○町長（宮崎 吉敏君） すみません、質問の中にそのことは入っていなかったものですから、そのことに関してはしっかりと精査はしていきたいと思います。ただ、国・県という組織と川南町がという、川南町もしっかりとそれぞれの担当課が担う責任、役がありますので、その中で、今、自治公民館についてはまちづくり課が担当しているということです。

以上です。

また、今後もし機会があれば、次の一般質問のときにでもお聞かせいただければと思います。

以上です。

○議員（蓑原 敏朗議員） 社会教育行政については、また次の機会にしたいと思います。

今回は、町政運営方針に係る質問限定でしたが、何事についても言うはやすく、実現は困難なことが多いのが現実だと思います。でも、それなくして持続可能な川南町の実現ということは不可能、できないということでしょうけど、ぜひ町長には、先ほど同僚議員の質問に、若連協という言葉がいっぱい出てきましたけど、若連協が発足する前から、いわゆるフェスティバル等について一緒にやった仲ですから、町長のリーダーシップなり活躍は知っておりますので、ぜひその行動力を発揮され、町政運営方針の具体化、具現化にぜひ邁進していただきたいと思います。

何か御決意があればお聞きして、私の一般質問を終わりたいと思います。

○町長（宮崎 吉敏君） 蓑原議員の質問にお答えします。

私たちが若い頃というのは、また、今と環境が全然違ったと思っています。何もない川南町に、自分たちで何かやろうという熱い思いがあったと思うんです。ただ今、若者連絡協議会もそれぞれが事業者の主で活動をなさっています。ですから、いろんな形で負担が起きるというのは大変、酷なことなのかなと。ですから、労力がかかること以外にできることがあるんじゃないかなと、そういった方向性も示していけたらなと思っています。

以上です。

（ 午前11時59分 終了 ）